

黒船になった「しらはま丸」 特別クルーズ乗船記

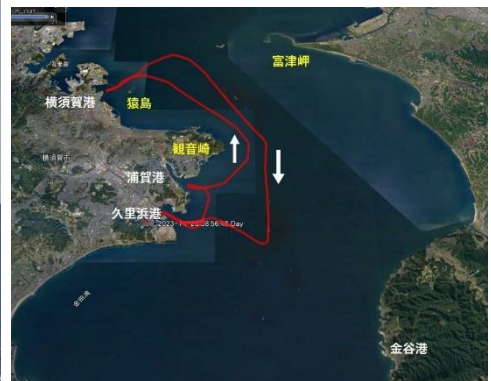
会員 福富 廉

ペリー提督率いる黒船艦隊が浦賀に来航して今年で 170 周年を迎えたことから、東京湾フェリーの「しらはま丸」が横須賀市の補助を得て今秋のドックで黒船仕様に変更され、11 月 24 日に戻ってきた。それを記念して、11 月 25 日（土）と 26 日（日）に

「黒船に乗船して行く！ ペリー来航の足跡と横須賀の伝説を辿るクルーズ」

と称したミニクルーズが行われることになり、その初日に乗船してきたのでレポートしたい。

ちなみに、「しらはま丸」とペリーの旗艦「サスケハナ」の全長は 78.8m 対 78.3m とほぼ同じだそうである。



↑ クルーズ航路図（時計回り）
← 久里浜港に入港してきた「しらはま丸」

クルーズの概要は、以下の通り（配布された“みどころ”から）。大人 1 人 3,000 円

10:15 久里浜港出港（久里浜沖はペリーが上陸時に黒船が停泊した場所）

浦賀港（江戸時代国内商業港として栄えた港）

鴨居沖（ペリーが最初に停泊した場所）

旗山崎（この岬を超えれば江戸に進出できるとペリー言った岬）

猿島（江戸湾を測量した際にペリーアイランドと名付けた島）

この後、浦賀水道航路に入って南下し、南口 1 番ブイを回って航路から離脱した。

13:40 久里浜港着岸（13:20 発の「かなや丸」の出港を見て入港）



当日はとても寒かったものの天気恵まれて、西方向は曇っていて富士山こそ見えなかったが、それ以外の方向の視界が素晴らしく、スカイツリーは元より、遠く筑波山まで見る事ができた。また、反航・同航する大型船もこの時間にしては少なからず見る事ができた。

船内では、司会者と横須賀観光協会の職員、地理に詳しい専門家の3名で解説に当たっていた。ただ、周囲の船に関する解説は、横須賀の走水沖にずっと居続けている大新土木の海洋汚濁防止装置船「せいわ」に関するものだけだったようなのが残念だった。その他、船内では、横須賀海軍カレーやその場で焼いた房総の海の幸等が提供されるグルメ屋台の出店の他、フラダンス・ショーや、横須賀市のマスコット・キャラクターやペリーの着ぐるみの撮影会等々が行われて、多くの乗客が景色とともに楽しんでいた。



久里浜港を出港
(右奥は“あしか島”、その向こうが房総半島)



浦賀港口
(左は旧、住友重機械・川間工場跡地のマリーナ)



観音崎 (中央が灯台)



横須賀港・東京九州フェリーのターミナル
(フェリーからは、いつも暗闇の中の景色)



2階客室の船内階段付近
(船内はまるで黒船博物館のようでした)



船内の飾り
(ペリーの顔出しパネル)



当日の参加者への記念品
(缶バッジとシール)

しらはま丸の塗装の変遷



2023年11月25日撮影



千葉県のキャラクター
“チーバくん”

2017年12月9日就航

2020年10月3日撮影



2012年6月10日撮影

僚船「かなや丸」 本船の塗装はずっと変わっていない（当日の撮影）



【余談】 当日のシップウォッチング等



久里浜港に入港する「セブンアイランド結」



横須賀・走水沖 大新土木の海洋汚濁防止装置船「せいわ」



NTT-WE マリンのケーブル敷設船「C/S VEGA」



トヨフジ海運の外航 RORO 船「TRANS FUTURE 3」



横須賀・猿島航路「シーフrendゼロ」



久里浜港内オリエンタルボートで建造中の 26m 双胴船



明治 31 年（1898 年）完成、煉瓦造りの旧、川間ドック
現在は、シティマリーナヴェラシスの一部



浦賀の渡し「愛宕丸」